みやぎ県議会だより

令和元年
9月定例会特集
第131号

編集・発行　宮城県議会広報委員会
TEL 022(211)3592
〒980-8570　仙台市青葉区本町３丁目８番１号

議決した議案等

発　議＜3件＞

○食材王国みやぎの伊達な乾杯条例
○宮城県議会委員会条例の一部を改正する条例
○宮城県議会会議規則の一部を改正する規則

意見書＜4件＞

○私学助成の充実強化に関する意見書
○新たな過疎対策法の制定に関する意見書
○高齢者の安全運転支援と移動手段の確保を求める意見書
○森林環境譲与税の譲与基準の見直しに関する意見書

可決・認定・同意した知事提出議案＜39件＞

○令和元年度宮城県一般会計補正予算
○特定地域看護師確保対策修学資金貸付条例
○主要農作物種子条例
○企業立地促進のための県税の特例に関する条例の一部を改正する条例
○公営企業の設置等に関する条例の一部を改正する条例
○いじめ防止対策調査委員会条例の一部を改正する条例
○平成30年度宮城県一般会計決算及び各特別会計決算の認定について　ほか

採択した請願＜1件＞

○政府及び国会に対し私学助成に関する意見書の提出を求めることについて

※議案等に対する各議員の表決状況については、県議会ホームページに掲載しているほか、議会図書室で閲覧できます。

復興完遂へ課題解決を

知事「新総合計画で指針示す」

第369回宮城県議会（9月定例会）は9月3日から10月4日まで32日間の会期で開かれた。116億2800万円を増額する令和元年度一般会計補正予算や、県産酒での乾杯を推進する議員提案の「食材王国みやぎの伊達な乾杯条例」など42議案を原案通り可決した。代表・一般質問では、東日本大震災の復興や水道3事業の運営を一体として民間に委ねる「みやぎ型管理運営方式」、観光政策など活発な質疑が行われた。

9月定例会の本会議

東日本大震災の復興関連は、県震災復興計画が2020年度に終了することを踏まえ、復興の総仕上げに向けた課題を解決するための議論が目立った。

議員は「被災地の将来を考えた時、県政の方向性を一つにして、復興の次の時代を描くべきだ」と提言。知事は「次期総合計画は21年度から10年間の県政運営の指針となり、まさに復興の次の時代の姿を描くものだ」と述べ、現行の「宮城の将来ビジョン」と「県震災復興計画」「県地方創生総合戦略」の三つの計画を統合して策定する方針を説明した。

さらに知事は「復興の完遂に向けたきめ細かなフォローアップのほか、人口減少や少子高齢化などの社会変化への対応に果敢に挑戦したい」と意気込んだ。

「復興の完遂に向けて、復興事業の進捗状況と現状評価をどう捉えているか」との議員の質問に、知事は「インフラ整備を中心としたハード事業はおおむね順調に進んでいる」と答弁。被災者の心のケアや地域コミュニティーの再生などソフト面の強化に関しては「重要な課題。今後も中長期的に取り組んでいく」と語った。

議員は「創造的復興が被災地全体に広がらない中、二重ローン返済の負担増や高齢者の孤独死などの復興災害への対応が必要になる」とも質問した。

知事は「復興の過程で生じる諸課題については、被災者に寄り添い、関係機関と連携しながら丁寧に対応する。創造的な復興を県民一人一人が実感できるように取り組む」と述べた。

職員の震災経験 次世代に伝承へ

震災伝承に関しては、議員から「職員らを対象とした震災の検証を始めたと聞く。検証結果はどのように活用するのか」との質問があった。

県は、震災時の職員の経験や教訓を次世代に引き継ぐために、8月から震災後10年間の総括検証に着手したことを説明した。

具体的には、災害対策本部の設置・運営や、仮設住宅の整備など80テーマを設定。2021年度までに、県職員ら約1200人を対象に、災害経験者の声を記録した「災害エスノグラフィー」に準じたインタビューを行うことを想定する。結果は、報告書や映像記録として残す方針。

震災復興・企画部長は「震災を経験していない職員の研修や、他の都道府県に発信することで、将来の大規模災害発生時の羅針盤となるように活用したい」と回答した。

料金や安全性を懸念

水道「みやぎ方式」県の認識問う

県内の広域上水道と工業用水、流域下水道の運営を一体として民間に委ねる「みやぎ型管理運営方式」について、議員からは、水道料金の上昇や水道事業の安全性への懸念が相次いだ。

県は、11月定例会に条例改正案を提出する方針だが、議員は「県民の理解が不十分。受益者負担の増加が考えられるほか、責任の所在などの不確定要素が多く拙速だ」と批判した。

県の素案では「みやぎ方式」は浄水場・下水処理場の運転、設備の維持管理・更新を民間に委ねる一方、県は水質検査、管路等の維持管理・更新、全体のマネジメントを行うことを盛り込んだ。知事は「県が最終責任を担いながら、民間の力を最大限活用してコスト削減を実現する施策。県にとって最も効果的な運営方法だ」と理解を求めた。

「公共性の高い水道事業で、安全性や安定性に問題はないのか」との質問もあった。公営企業管理者は「設備機器の調達などは事業者の裁量で行われるが、完成時には県に所有権が移るため、しっかりと品質や性能を確認する」と答弁した。

一方で「大幅なコスト削減が可能となる。速やかに導入することが県民の負担軽減につながる」と、事業に前向きな議員に対して、知事は「今後想定される管路の大規模更新に向けて、経営基盤を強化することが喫緊の課題。導入することで、県民負担の軽減につながる。日本の新しい水道事業のモデルとなるよう着実に進める」と語った。

仙台空港利用客増へ 東北6県で連携の必要

仙台空港（名取、岩沼両市）の利用者増加に向けた質問で、議員は「民営化されたものの、旅行客の獲得の波に乗り切れていない」と指摘。東北6県で連携して取り組む姿勢を求める質問もあった。知事は「東北各県が観光資源の発掘や磨き上げを進めることが必要」と答弁。仙台空港は民営化以降、国際線が週10往復から28往復と3倍近くになったほか、国内線も増加したことを説明。「昨年度の旅客数は361万人で、民営化以降2年連続で過去最高を更新した」と強調した。

知事は、昨年の外国人旅行客の延べ宿泊者数についても言及し「全国的なシェアは低いものの、県の伸び率は前年比145%で、全国平均を大きく上回っている」と今後に期待を寄せた。

「国内線を充実させることも重要だ」との議員の意見に、土木部長は「国内線の需要拡大に関する調査を行いたい」と答えた。

質問者と主な質問項目

○**代表質問**（3人）
▽**佐々木幸士**（自民）県民の安心を守る重要課題への取り組みについて、「富県宮城」実現に向けた現状整理について▽**藤原のりすけ**（県民の声）知事の政治姿勢について、創造的復興と復興災害について、特養待機ゼロと在宅介護の充実について、切れ目のない子育て支援と虐待防止について、AI及びRPAの導入による事務作業の効率化について、みやぎ型管理運営方式について▽**遠藤いく子**（共産）誰ひとり取り残さない復興のために必要なこと、県民のくらしを支える県政の責任について、水道三事業の「民営化」の問題点について

○**一般質問**（16人）
▽**中嶋廉**（共産）女川原発の再稼働中止、原発政策の転換について、ひきこもりの実態調査と対応の充実について、教員政策の転換について▽**仁田和廣**（自民）仙台港油流出事故の救済対策について、県内河川の水害対策について、福祉政策の充実及びパラスポーツについて▽**庄田圭佑**（自民）公民連携の取り組み強化について、高齢社会のまちづくりについて、県政の諸課題について▽**ゆさみゆき**（県民の声）知事の政治姿勢と県政運営の課題への対応について、次期総合計画とSDGsについて、全世界から受け入れを視野に入れた防災教育の拠点となる震災遺構の構築を▽**深谷晃祐**（自民）公共交通の整備と道州制及び多賀城政庁跡の活用策について、療育支援について、県民会館の建てかえについて、農業政策について▽**渡辺勝幸**（自民）復興の次の時代をどう描くか、ママ支援と特定不妊治療の助成について、税金を支出する基準となる公平性の担保について▽**角野達也**（共産）障害児・者支援策の更なる充実を求める、教育条件の拡充、教育環境の整備について、仙台におけるイノシシ対策の課題について、県財政について▽**高橋宗也**（自民）東日本大震災からの復興と防災対策について、県計画とSDGsの連携について、復興五輪とスポーツの振興について

▽**遠藤伸幸**（公明）交通事故防止対策について、児童虐待防止対策について、大人のひきこもり問題について、小児がん患者への支援について、動物愛護行政について▽**村上久仁**（自民）豪雨災害とダムの防災機能について、貧困問題と子ども食堂について、運転免許自主返納と生活環境の整備について▽**坂下やすこ**（県民の声）精神医療対策について、投票率向上対策について▽**岸田清実**（社民）みやぎ型管理運営方式と市町村水道の課題について、原子力災害時広域避難計画について

▽**畠山和純**（自民）宮城県次期総合計画とSDGsの推進について▽**只野九十九**（自民）宮城農政とりわけ宮城の米づくりの将来の課題について、宮城県地域医療計画及び県の圏域医療の今後について、介護事業の今後の取り組みについて、復興事業終了後の県内の建設産業について、南部神楽の県指定について、市町村の更なる合併について▽**太田稔郎**（県民の声）障がい者の自立について、県道路の課題について、宮城県農業の諸課題について、AEDの設置と活用について、廃プラ処理について▽**吉川寛康**（21世紀クラブ）震災復興と地方創生について、仙台国際空港の利便性向上について、教育環境の今後のあり方について

＜会派名略称＞自由民主党・県民会議＝（自民）、みやぎ県民の声＝（県民の声）、日本共産党宮城県会議員団＝（共産）、公明党県議団＝（公明）、社民党県議団＝（社民）、無所属の会＝（無所属の会）、21世紀クラブ＝（21世紀クラブ）

全国各地の災害受け質疑

七北田川の改修着手時期ただす

全国各地で台風による洪水被害や強風による住宅被害などの自然災害が発生したため、防災や減災対策に関する質疑もあった。

議員は、2015年の関東・東北豪雨で上流部が氾濫した七北田川（仙台市）について「河川整備計画での具体的な事業着手時期と、工事の進め方はどうか」と質問した。

知事は、仙台市泉区の赤生津大橋―冠橋間の約14㌔が抜本的な治水対策が必要な区間であることを説明した上で、「本年度内に河川整備計画を公表する予定。来年度に詳細設計や用地買収を行った上で、21年度の工事着手を目指す」と回答した。

「近年は全国的に大雨被害が頻発しており、水害の甚大な被害が予想される」と県の危機意識を求めた議員の質問に、知事は「大規模水害での人的被害ゼロを目指し、ハード・ソフトが一体となった対策を推進する」と、国の国土強靱化の予算などを活用し、治水対策を進めていることを説明した。

JR仙台貨物ターミナル駅敷地（仙台市宮城野区）に整備する広域防災拠点事業の遅れに関する議員の質問もあった。防災拠点の使用が始まるまで、知事は「大規模災害が発生した場合、県総合運動公園（利府町）を暫定の広域防災拠点と位置付けている」と答えた。

校舎建て替え 早期着手要望

県視覚支援学校

障害者や福祉政策の分野で、議員は、老朽化が進む県視覚支援学校（仙台市青葉区）について「校舎の建て替えを含めた検討状況はどうか」と、早期に着手する姿勢を求めた。

知事は「校舎は2024年度中の使用開始を目指している」と説明。さらに校舎の建て替えに合わせ、幼稚部を新たに設置する意向や、隣接する県視覚障害者情報センターを合築し、多機能な施設となるよう検討すると説明した。

議員は、県聴覚支援学校（太白区）の建て替えの必要性もただした。教育長は「校舎や体育館、寄宿舎は老朽化が進んでいる。できるだけ早く着手できるよう検討する」と答えた。

特別支援学校の通学バスの運行時間について、議員は「通学時間は1時間以内にするほか、バスを増便するべきではないか」と質問。教育長は「乗車時間が短くなるよう運行コースは毎年見直している。今年度は94コースあり、平均通学時間は61分。2016年度と比べ7分短縮した」と述べた。

予算特別委員会

９月20日、委員10人による総括質疑を行い、その後、各分科会での審査を経て、令和元年度宮城県一般会計補正予算等を可決した。また、10月３日には、令和２年度の予算調製方針に関する執行部の説明を受け、委員８人による質疑が行われた。

９月20日質疑者
遠藤隼人、佐々木賢司、横山隆光、守屋守武（自民）、佐々木功悦（県民の声）、内藤隆司（共産）、横山のぼる（公明）、熊谷義彦（社民）、渡辺忠悦（無所属の会）、吉川寛康（21世紀ク）

10月３日質疑者
村上智行、高橋宗也（自民）、坂下賢（県民の声）、天下みゆき（共産）、伊藤和博（公明）、熊谷義彦（社民）、渡辺忠悦（無所属の会）、吉川寛康（21世紀ク）

決算特別委員会

９月19日に設置し、委員長に渡辺和喜委員（自民）、副委員長に佐々木功悦委員（県民の声）を選任した。

９月27日に委員10人による総括質疑を行い、その後、各分科会での審査を経て、平成30年度宮城県一般会計決算及び各特別会計決算等を認定・可決した。

総括質疑者　安藤俊威、髙橋伸二、中山耕一（自民）、高橋啓（県民の声）、三浦一敏、大内真理（共産）、庄子賢一（公明）、岸田清実（社民）、菅間進（無所属の会）、吉川寛康（21世紀ク）

常任委員会

今定例会での主な審査議案は次のとおり。

○総務企画委員会
審査議案　会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例など８議案及び請願１件
○環境生活農林水産委員会
審査議案　食材王国みやぎの伊達な乾杯条例など３議案
○保健福祉委員会
審査議案　母子福祉資金貸付金、父子福祉資金貸付金及び寡婦福祉資金貸付金償還免除条例の一部を改正する条例など２議案
○経済商工観光委員会
審査議案　富県宮城推進基金条例の一部を改正する条例の１議案
○建設企業委員会
審査議案　工事請負契約の締結について（石巻市道湊町四丁目門脇町五丁目線鎮守大橋（仮称）新設（上部工）工事）など14議案
○文教警察委員会
審査議案　工事請負契約の締結について（宮城県石巻好文館高等学校校舎等改築工事）など２議案

若者との意見交換会

意見交換会に参加した若者と議員

県議会は８月28日、県議会庁舎を会場に「若者と宮城県議会議員との意見交換会」を開催、県内在住の大学生７人が参加した。学生たちは「宮城県政に期待すること」をテーマに意見発表した後、防災や観光などさまざまな分野について議員と意見を交わした。意見交換会は、より県民に開かれた議会を目指すとともに、若者の議会への理解と関心を高め、議会を身近に感じてもらうことを目的に、３回目の開催となる。

正副議長記者会見

９月定例会閉会日の10月４日、相沢光哉議長が記者会見を行った。

会見の初めに、各地で相次ぐ災害に触れ、亡くなられた方々への御冥福と、被災された方々へのお見舞いの言葉を述べた相沢議長は、９月定例会を振り返り「議会改革推進会議の提言を踏まえ、宮城県議会委員会条例の改正案が全会一致で可決された。条例改正により、常任委員会が再編され、『環境福祉委員会』と『農林水産委員会』が設置されることとなるが、常任委員会における調査および審査の一層の充実を期待している」と語った。また「議員提案条例として『食材王国みやぎの伊達な乾杯条例』が全会一致で可決され、今後の地域に根ざした酒造産業と農林水産業の振興を期待したい」と述べた。

議長として最後の記者会見となる相沢議長は「議会は討論・議論の場であり、執行部との二元代表制の中で、県民の期待、世論、そして要請を受けて、しっかりとした議員活動をしていくことが執行部との良き緊張関係にもなり、県民のさまざまなニーズに対する回答の一つの姿になろうかと思う」と語った。

同じく最後の記者会見となる只野九十九副議長は「執行部の全国にさきがけた果敢なチャレンジと議会としての条例提案。切磋琢磨しながら、より良い二元代表制の議会を目指すことが大切だと思う」と述べた。

県議会からのお知らせ

●ラウンジコンサート
県議会では、年４回の定例会開会日に「ラウンジコンサート」を開催しています。入場は自由ですので、ぜひご来場ください。
◇次回コンサートの開催予定
・日時／11月25日（月）午後０時15分～45分
・場所／県議会庁舎１階ラウンジ
・出演／Loose Music（声楽とピアノ演奏）

●傍聴のご案内
本会議、各委員会は手続きの上、傍聴できます。
▷お問い合わせ先　宮城県議会事務局総務課　ＴＥＬ022(211)3571

●ホームページのご案内
定例会の日程や会議録、議会中継等をご覧いただけます。

宮城県議会　検索

●議会中継のご案内
スマートフォンやタブレット端末で議会中継をご覧いただけます。アクセスはこちらから →

「みやぎ県議会だより」へのご意見・ご感想をお寄せください
宮城県議会事務局政務調査課
〒980－8570　仙台市青葉区本町３丁目８番１号
TEL022(211)3592　FAX022(211)3598
Ｅメール　gtyosas@pref.miyagi.lg.jp